

# 冬の鉢花の管理

札幌市農業センター

田中勝雄

長く厳しい冬、外は真白で家に閉じこもりがちな環境が続く時、窓辺に咲く草花が、どんなに私達の心を慰めてくれるか少しありません。花が好きで買ってきても長持ちしないとか、十分に咲かせることができないということ、自分の家で花を管理するのは無理だと諦めてしまう家庭が意外と多いようです。そこで冬の鉢花の管理、庭先の草花の鉢花としての利用等について述べてみます。

今更いまでもありませんが、第一は植物の生育条件を把握することです。光、温度、水分、このどれが欠けても健全な生育はできません。冬期間の寒さは格別ですが、鉢花が凍って駄目にする家庭は割合に少なく、水の不足と、暖房のきき過ぎで高温のため駄目にするのがかなり多いようです。

## 一 光

植物は光を受けて同化作用を行なって生育していますので、光線がないと生育できません。又不足すると茎や葉が、短期間に軟弱に伸びて花も蕾の状態で落ちてしまいます。

鉢花は出来るだけ日当たりの良い南側の窓辺に置くように心掛けましょう。どうしても日照不足の場合は、蛍光灯の一本に、プラントルックス（市販されている）を使用すると良い。日照時間は、最悪の場合でも一日三時間以上を確保してやるのが大切です。

## 二 温度

作物によって異なりますが、花を楽しむものは少々低めの温度二五度C〜二〇度C

くらいが良く、高くても二五度Cくらいが限度で、高温下で管理すると開花は早くなくなります。また、室内の湿度が低くなるのと合わせて、植物体からの蒸散作用が大きくなり、いくら灌水しても間に合わなくなり、このため徐々に株が弱って、ついには駄目になってしまうケースが多いようです。昼頃はどうしてもこのような状態になり勝ちですから部屋の状態が良くなるまで、涼しいところに移す等の心遣いが大切です。また凍害を心配して夜間の保温に相当頭を痛めている向きもありますが、一般の草花は五度Cあれば十分で二度〜三度Cでも大丈夫ですから、次の図のようにダンボールを利用して夜間の凍害防止を試みてはいかがでしょうか。



一段と寒気が厳しい時はダンボールの上から毛布等で被ってやると良く、夜間だけですから葉や茎が押し合いの状態でも痛まぬ程度収容出来るので、一寸した箱で五〜六鉢は入ります。

(下段前頁より)  
良いようである。

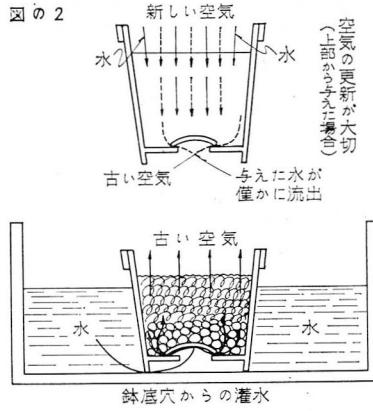
## (Ⅵ) 原料の品質について

原料栽培を上手に行ない、適熟期に収穫しても収穫から加工迄の時間が長いかかりすぎると成分の変化が早く品質が低下してゆく。成分の変化として最も目につくのは水分の減少である。アスパラガス、ピーンズ、ホウレンソウなどは減少が早く二十四時間も室温中へ放置しておくとも二割近い減少となる。また、収穫後時間と共に繊維が固くなり筋張り、食味の低下するものもある。味に最も影響するものとして、原料中の糖分が減少し澱粉質が増え、味が低下するものもある。この最も良い例としてスイート・コーンの例を上げると表七の如くなり温度により異なるが、いずれも時間と共に糖分は減少し澱粉が増え食味が低下している。

この様に冷凍野菜に関しては、品種、栽培法、収穫時期、収穫から加工迄の時間、全てが製品の品質に影響して来るので、これらの生産については、原料生産者とその加工者の密接な協力体制で行ない、良い製品を生産し、今後増々生産と消費を伸ばし、安定した冷凍野菜の栽培を続けられる様努力して行かねばならない。

### 三水 分

俗に水かけ三年といわれる通り、専門に栽培している者でもむずかしいのですが、地表面に軽く湿気が残っている状態が良く、湿気が多すぎても、乾き過ぎても良くありません。灌水方法は、一般に根元にそそぐ方法と、鉢の底穴から吸わせる方法があります。次の図のようにバケツ等を利用して下から吸わせる方法が理想的です。



植物は光を受けると葉では炭酸ガスを吸って酸素を出す作用をしています。根は酸素を吸って炭酸ガスを出しています。限られた容器の中で栽培されている関係で、根が相当密な状態にあり通気が特に重要性を帯びてきます。このことから、鉢に草花を植込む時の培養土の通気性の面も合わせて把握して下さい。もし沢山の鉢があつて面倒な場合には上部から静かに与え、下部から少し流れ出るくらいが良く、地表面のみ濡らす程度ですとすぐ乾いて何回も与えなければならず、又逆に多過ぎるといふその状態でなければならぬ。

性の面からいっても根に悪い状態です。から、灌水はあくまでもその時の乾き具合をみて与えることを覚えて下さい。また、灌水と合わせて室内の暖房の関係から極端に湿度が低く、蒸散作用が大きいので、ほこりを落とす意味と共に蒸散作用を抑制するために、日に二〜三度、葉面に霧水かけると良く、もし花卉に水滴がいたらしみができることがありますから落して下さい。次にいくつかの種類をあげて買う時の注意等を書いてみましょう。

和名 かがりびばな さくらそう科  
花言葉 遠慮、内気  
シクラメン



半耐寒性で多年草の塊茎植物で、花は独特に反転する状態のものが多く、開花してから三〇〜四〇日も開花したままで、次から次と咲きほこり鉢花の王様といったところです。

この花は寒さより暑さに弱く、一五度C〜二〇度C程度の涼しい場所で管理すると、十一月から三月下旬まで花が見られます。温度が高いと花の寿命も短かく、

病気も発生し易くなり極端に弱ります。

三月下旬、ほぼ花が終ったころ鉢から抜き取り、塊茎の下根を一〇センチくらい（おおよそ一握り）残して切り取り、細根を半分くらい除去し三〜四日陰干しにして傷口を硬め消毒した土（二〜三鉢分だと熱湯消毒するのが簡単である）に植込みます。用土は有機質が多く水はけの良いものを選びます。なおこの時いきなり大鉢に植え込みます。四号鉢を用い生育に従って鉢替をします。日中かんかん照りのところはさけて下さい。追肥は一カ月に一回、菜種油粕か骨粉を少々置肥する程度で良く霜にあう程度まで戸外に置きます。九月以降はできるだけ日に当たるよう心掛けて下さい。

なお市場に出ているシクラメンの買い方のコツは、葉が硬く沢山ついているもの、葉柄の伸びていないもの、茎の太いものが良く、色彩的には赤、白、桃、褐色など、また、花卉は丸型のものが一般的で多く、波状弁咲きのものもあります。

サイネリア (シネリア)  
和名 ふうぎぎく キク科

原産地 アフリカのカナリー島  
花言葉 快活、常に喜ぶ

冬から春にかけての鉢花ですが、色彩的にも咲きほこるさまは他に見られぬ面を持っております。花は一重の菊花状で茎頂に一五〇輪から五〇〇輪ほど花をつけ、満開の状態では二ヵ月ほど咲きほこる様子は見事の一言につきます。

原産はアフリカですが、現在のものは改良されてはいますがやはり暑さが苦手、

できるだけ涼しい場所で管理するのが花を長持ちさせるコツです。開花中の管理としてはアブラ虫のつきやすい草花ですから、マラソン乳剤を散布するか根元に P S P、二〇四粒剤を施すと良い。花が終ると普通は捨ててしましますが、地上五センチくらい若い芽茎を残して刈ってやると型は良くありませんが、三ヵ月ほどで開花します。

サイネリアは鉢花の中では比較的生育が旺盛で短期間（六ヵ月ほど）で花がみられるようになるので、素人の方の栽培が可能と思われれます。七月中旬に、は種すると一月以降に花が楽しめます。

買い求める時のコツとしては、やはり茎葉の伸び過ぎている蕾の沢山ついているもの、単色のものもそうであるが、複色系のものは色彩がはっきり分れているものが良く、色は牡丹色、青色、桃色、赤等の単色のものから、蛇の目咲きのように花卉の中心部が白く外側が赤とか青のものがあ、他の鉢物と並んで色彩的にも対象的で、にぎやかで面白い鉢花です。

アザレア  
和名 オランダツツジ シヤクナゲ科

花言葉 愛の楽しみ

アザレアは中国に原産地を有するシナノサツキとリュウキウツツジなどがヨーロッパに渡り交配されたツツジで、耐寒性がなく、やはり他の草花と同様な管理をしてやらなければなりません。

シクラメン、サイネリア等よりは暑さに強いが、花を大きく、また、長持ちさせるためには涼しい方が良く花色も鮮明になり

ます。

一般管理としては、乾燥すると落葉するので一日に二、三回は葉面灌水をします。

また、余り過湿状態にしないこと。

店で買われるものは整理してあると思いますが、蕾の下から側枝が出てきて、それを摘まないと伸長させると折角の蕾が抜け殻になって、開花をみないことがあるので随時摘み取ってやること。また、その他根元とか枝から出る新梢も同様です。

アザレアは買った年は良く咲いたが、二年目以降は枝ばかり出て花が咲かないとよくいわれますが、次のことに注意するとよいと思います。

花芽分化は二〇度Cに六週間で行なわれ、その後休眠に入り、五、八度Cに四週間あって休眠が打破され蕾が肥大し開花します。花が終わると新梢が伸長してその枝の先に花芽ができるので、花が終わったら十分に肥培し新梢を伸ばしてやるのが大切です。一般には、花が終わると手入れが悪くなり花芽分化をする時期に十分な栄養を保持しないのが多く、このため満足な花芽ができなくなつて結局花が咲かないことになるのです。特に乾燥は絶対禁物です。五月中旬までは室内での管理が大変ですがそれ以後は多少湿気があるような場所を選んで、鉢から抜き、地植するのが良く霜の降りる心配のある九月下旬掘り上げて鉢に植込んでもやるとよいでしょう。

休眠打破のための温度管理は、できるだけ長く寒さに合せることで解決します。蕾の肥大を待ち蕾の下から出てくる新梢

を摘んでやります。

なお近年アザレアと共に、久留米つつじが出廻っていますが、大半の品種は耐寒力に乏しいのでやはり同様にするとよく、また、二、三年は枝の張り具合も良いがそれ以上になると枝が伸び過ぎだれてくるので、その場合は花が済むと同時に枝の具合をみてせん定します。

アザレアの花は一重と八重があり、花色も濃紅、ピンク、白覆輪、絞りなどあり、他の鉢物との配色にこと欠かないほどです。また、繁殖も挿木から容易にでき六月から七月にかけて挿木したり、或いは地植のまま取木したりして殖すことができます。



プリムラ類

和名 さくらそう さくらそう科

原産地 中国 ヨーロッパ他

花言葉 初恋。可れん

さくら草には種類が多く、古くから庭先で見かけられ、耐寒性のもももありますので家庭で増殖して、秋鉢に植込み観賞するなど大いに取り入れたいものです。

さくら草の代表的なものとして、プリム

ラマロコイデス、プリムラオポニコカ、プリムラポリアンサの三種類があり、いずれも比較的低温に強いのですが、好光性であつて、常に十分な光が当たってないと花色が悪くなるし、生育も満足できません。従つて今迄書いたどの鉢花よりも光線を当ててやらなければなりません。特にマロコイデスは色が抜けやすいので買求める時は、多少好みの色彩よりは濃色のものを選ぶといいでしょう。開花期は十二月中旬より五月上旬までで、日ざしが強くなる三月頃は色も鮮かになるので大事に管理しましょう。プリムラオポニコカは、俗にときわざくらと呼ばれ四季を通じて花がみられます。

凍りつく寒さには耐えられませんが草花の中では性質が強く、草花鉢で初心の方は、この種のものから慣れるのが良いと思います。

プリムラポリアンサはこの三種の中で唯一つ、露地で越冬出来すから冬の鉢物として観賞した後、庭先に植え込むと秋までは相当大きな株になり、株分けも可能になりますし、花壇の花としても楽しめます。

### その他の鉢花

鉢物の種類は極めて多く、その全てについて説明することができませんので、最後に、一般家庭にある観葉植物やサボテンの冬の管理についてのべましょう。

どちらも熱帯産のもので、寒さには十分耐えられます。ゴムの木やサンセベリア等は冬期間ほとんど水を与えないで、凍らない程度の温度、即ち五度C程度の温度で管理して下さい。この場合、ストープの

側や暖かい部屋に置くと、空気が乾燥し過ぎて落葉することがあります。

サボテンもサンセベリアと同じように水を与えずに低温で保存して下さい。数が少ないときは、毛糸のボコに包んでダンボール箱にでも入れ棚の上に置いた程度でも良いと思います。

日照が少ないですから水をやると徒長して、丸いサボテンも細長くなって形がくずれます。また、水をやることによって、体がやわらかくなった所へ低温がきますと、簡単に腐敗します。サンセベリアなどは、水滴が落ちただけでも腐ることがあります。

三月の下旬になったら、自然に休眠からさめますから窓辺に置いて、光を与えてやって下さい。水は五月になってから鉢替のとき与えてもおそくありません。

どんな植物でも、温度が高く、日照の強いときは十分灌水し、反対に寒くて日当たりの悪いときは水をやらないようにすることが基本となりますし、冬は日照が少ないから努めて、光を多く与えるようにすることが大切です。冬の間はこれらの植物にとって快適な環境ではないのですから、活動も活発にはできません。従つて肥料などあまり与える必要はなく、むしろ与えない方が安全といえます。

